

2年生学年便り

豊中市立第一中学校 74期生

NO.28 2020. 3. 5(木)

講演会がありました

2月20日(木)の5・6時間目に、講師として花村こずえさんをお招きし、部落差別問題についてのお話を聞きました。花村さん自身の友人とのエピソードなどがあったことで、より想像しやすかったのではないのでしょうか。お話の中で強く印象に残ったのが「差別する人がいるから差別される」という言葉です。今回の講演をきっかけに、部落問題に関わらず、一人一人が普段の自分の行動や考え方の中に「差別的」なものがないかどうか、立ち止まって考えてみてください。



みんなの感想



なぜ住んでいる所によって差別されるのか本当によく分からない差別だと思いました。けれどそういう差別があるということを知らないと、親からもし「～ちゃんとは遊ばないで。」と言われても知識がないとそれが差別で、してはいけないことだと分からない私も「～ちゃんが住んでいる所って部落ちゃうよな。」と無自覚のうちにAちゃんのように聞いてしまうかもしれない。だから知識がないことはとても怖いことだと思いました。

私は昔、黒人は差別されているんだよ、かわいそうに、という言葉聞いたことがあります。その時思ったことがあるのですが、かわいそうになってなんだ、そう思いました。そこに生まれ落ちて、当たり前前に暮らしている、たしかに差別はされているかもしれませんが、その中でも家族で楽しく暮らしているのを見かけでかわいそうだなって決めつけて、私からしたらそれも差別だと思うのです。

差別というものは歴史の勉強のときやニュースなどでよくでてきているけれども、その実態を知っている人は少ないのではないかと感じました。これから差別というものを無くしていくためには、より多くの人がある実態を正しく理解し、受け入れ合うことが重要だと思いました。

友達が差別に苦しんでいたなら自分も同じような見方をされてしまうことを恐れずに、その人に寄り添い助けてあげられるような人になりたいです。もしかしたら将来、自分が差別されることもあるかもしれないので、今のうちから人権についてよく学ぶいい経験でした。

花村さんのお話の最後の言葉に自分はすごくいいなと思いました。自分は一人じゃないんだと思ったりもして、不安だったこととかも少しは楽になったんじゃないかと思いました。

本当のありのままの自分を出して、それでみんなが理解し合い尊重し合える社会になってほしいと思います。人は色々な性格の人がいるから差別がおこるんだと思います。でも、いろいろな性格の人に出会って人は変わるんだと思いました。

花村さんの中学生時代のお友達が言ったように、「やらへんかったらできへんやん。」という言葉で、自分から何もせずに、「できない。」って言うんじゃないで、チャレンジしてみることが大事なんだと思いました。

昔は、差別をしている人、差別をされている人はどちらとも多かっただけで、僕たちは今差別のことを前よりより深く考えながら生きていかないとダメだと僕は思いました。僕もいじめの被害者の方になったことがあるのでこうしたらいいと思いました。

私はたまに見ただけでこの子とは仲良くできそう、あの子は仲良くできなそうと線を引いてしまう事があります。でもそれはダメだと分かっているけどしてしまう事です。これは差別と同じなのだと改めて気づきました。

仲間や友達のかは本当にすごいものだと感じました。自分が今まで相手に嫌なことをしたり、正直に話したりしたら自分から離れていくかもなどがあっても、本当の友達は離れていかない、この世の中一人じゃないと思いました。なので、今私といつも一緒にいてくれる人や助けてくれる人をもっと大切にしようと思います。

何かを隠して生きていくとかは私も同じことがあったので少しだけ気持ちがわかりました。花村さんの言う通り、自分で言うのも隠すのも人それぞれだと思うので、花村さんがいったことは私に勇気を与えてくれたような気がしました。

私も思ったことをすぐに話してしまう、相手の人の気持ちを考えて行動できないと反省する時があります。ですが今日のお話を聞いて変わることができると思うことができました。少しずつ挑戦していきたいです。

何を言われるのかわからなくて、自分の好きな事はあまり話せませんでしたが、最近では身近な友達のおかげで、自分の好きな事を話したりすることができています。

人の事をしっかり見ていないのに、口に出してぼんぼんと言うのではなく、しっかり相手の事を見てから言っはいけないこと、言っていいことを決めてから言う僕の中で決めることができました。



※この「2年生学年だより」は「豊中市立第一中学校ホームページ」からもご覧いただけます。